

## デビルミイナの変身

喜界町立阿伝小学校 5年 平 万里那

私は、デビルミイナ。悪い子大好き。世界中の良い子を見つけて、悪の道にさそって、仲間をふやしていくのが私の使命。今日のターゲットは、1組のリユウ君。

リユウ君は、おひとよしで、人のためにがんばる子。自分のことはいつも後回しにして、人の役に立つことに喜びを感じている。そんな良い子を悪の道にさそい、仲間になることができるのが一番うれしい。私は、さっそく、リユウ君のそばへ行った。思ったとおり、今日も何か人の役に立てないか探している。そこで、私は、リユウ君の前で、おなかがいたいふりをした。

「いたい。おなかがいたい。だれか助けて。」

そこへ、リユウ君がかけつけてきて、

「君、どうしたの。おなかがいたいの。すぐそばに、ぼくの知っている病院があるからおぶって連れていってあげるよ。」

と言った。そこで私は、

「ありがとう。さっきはとつてもいたかったけど、あなたのおかげで治ったわ。やさしいのね。」

と答えた。本当は、とつても重くなっておぶってもらおうと思ったけど、今日はこのくらいにしておくことにした。リユウ君は、今日も一ついいことができたということで満足そうだった。

翌日、私は、リユウ君の学級に転入した。これでたつぷり悪の道にさそえる。さて、今日は、何をしてやろうかな。さっそく、リユウ君が、転入生のわたしに学校案内をしてくれた。休み時間のたびに、いろいろな場所を案内して、自分は、ゆっくり休むひまもない。それでも、喜んでいるリユウ君は、すごく不思議なそんざいで、とうてい私には理解できない。まったくばかみたい。でも、ちょっとうれしいかな。帰り道も、送ってくれることになった。少し小雨がふっている。いろいろな話をして帰った。リユウ君は、どこのお店が安いとか、どこに何があるとかとても親切に教えてくれた。つまらないけど、うれしそうに聞いているふりをした。と中、雨がはげしくなってきた。二人は、お店ののき下で雨やどりをすることにした。目の前には、川が流れている。川は、だんだん水かさが増して、流れも速くなってきた。すると、目の前を

「キャン、キャン。」

と鳴きながら、白い子犬が流れていく。私は気づいたけど知らんぷり。たかが子犬のために、水にぬれるなんてまっぴらごめん。でも、リユウ君はちがっていた。

「ちょっと、まって。ミイナさん。あの子犬、なんとか助けてくる。」

そういうと、流れの速い川の中へ飛び込んだ。飛び込んだのはいいけれど、あまりに流れが速くて、いくら泳ぎに自信のあるリユウ君でも、おぼれそうになっている。自分が

おぼれそうになっているのに子犬を助けようとしている。子犬においついたそのとたん、ついにリョウ君と子犬は、川の中へしずんでしまった。そのしゅん間、私は川の中にいた。そしてデビルパワーで、リョウ君と子犬を助けていた。何てこと。私は、人助けなんて、まったくきょう味がないのに。でも、とっても気持ち良かった。心がすきっとした。リョウ君が好きな、役に立つことってこんなことなんだ。私は、今までの自分が変わったことに気づいた。これからは、リョウ君の仲間になって人助けをしていこう。世の中には、今までの私の仲間がたくさんいる。今までは、それがとてもうれしかったけど、これからは、それがとても悲しい。あんなに悪かった私でも、変身できたから、きっと他にも変身できる人はいるはず。これからは、リョウ君の仲間をふやすことが私の使命。もしかしたら、リョウ君は、エンジェルリョウだったのかも。